聖夜の儀式

ｋｏｄｏｍｏｚｕｒｕｍｕｋｅ

この作品はR18描写を含むため、18歳未満の方は閲覧禁止です。

HinaProject Inc.

注意事項

【作品タイトル】
聖夜の儀式

【Ｎコード】
Ｎ７４７６Ｚ

【作者名】
ｋｏｄｏｍｏｚｕｒｕｍｕｋｅ

【あらすじ】
太平洋に浮かぶオセアニア州のある国の部族に伝わる、聖夜の痛い儀式を描いています。

南太平洋に浮かぶオセアニア州の小さな国ではキリスト教が国教となっており、１２月２４日の夜には盛大な聖誕祭が行われる。そのにぎやかさの影で、一つの伝統的な儀式が行われている。

人口が１０００人そこそこという小さな国である。その中にはいくつかの部族がある。その部族に伝わる伝統的な習慣があるが、部族の者以外がそれを知ることはほとんどない。儀式の対象に満たない年少者にその内容を伝えることは堅く禁じられており、それを破ることは部族から排除されることになる。同時に部族以外の者に口外することは部の最高規約で禁じられている。その儀式を受けた者が自らの体験として知っているのみであり、それ以外の者は知る由もない。

儀式の対象になるのはその年に１０歳を迎えた少年少女である。知らされていることは１０歳になった年のクリスマスイブから正月にかけ、合宿の形式で大人になるための訓練を受けるということだけだ。対象者が１人や２人でもこの儀式は行われる。行われるのは部族の聖堂と呼ばれる施設の一室で、特別の儀式以外で立ち入ることはできない神聖な場所である。１０歳を過ぎた年のクリスマスイブ、親に連れられて聖堂に行く。そこで親とはしばしの別れになり、約２週間後に迎えに来るまでの間、部族の大人としての心がまえを伝授されることになっていた。

聖夜に行われる儀式というのが並大抵のものではない。余程同年齢が多くない限り、一人ずつ部屋が割り当てられる。準備が整うと一人ずつ各部屋から広間に呼び出され、身に着けているものを全て脱ぐように言われる。同性とはいえ知らない大人に意外な指示を出され、少年少女は戸惑う。「これから大人になるための通過儀式を行

う」とだけ告げられ、有無を言わさず裸にさせられてしまう。そして激痛を伴う儀式に要するのは５分程度である。口にタオルを詰め込まれているが、それでも叫び声が聞こえる。儀式が終われば各部屋に戻って休憩、患部の腫れが治まるのを待ちながら部族の大人として大切なことを学ぶ。約２週間で患部の腫れも治まり、日常生活に支障が出なくなる。それまでの間、親元を離れて体の痛みにも耐えながら、大人として必要なことを体得する。

今年も男女２人ずつ、計４人が親に連れられ、聖堂にやってきた。まずは男子から儀式が行われることになった。広間では男性数名が準備をしている。最初の少年が裸になってベッドの上に仰向けになる。股を大きく開かせ、右足・左足・腹部・頭部を大人がしっかりと固定する。裸で仰向けになった少年には自らの下半身で何が行われているのか、見ることが出来ない。その状態で一人の男性が少年の性器をくまなく消毒した。ペニスの根元から陰嚢、肛門までをしっかり消毒する。それが終わると地位の高い一人の男性がメスを右手に、ピンセットを左手に持った。ピンセットで少年の性器の包皮をつまみ、力の限り引っ張った。口の中にタオルを入れられた少年がうめき声をあげた瞬間、右手のメスは既に包皮を切り落としていた。あっという間に血まみれの亀頭が露出する。ここまでは普通の割礼だが、この民族はかつてアボリジニーが行っていた尿道割礼の名残を残す施術もしていた。尿道付近にもメスで切り込みを入れる。今後しばらくの間、排尿の度に激しい痛みが生じるのはこれが原因である。

男子が終わると施術者が交代し、比較的大柄な女性陣が準備をはじめた。準備が整ったところで今度は少女が呼ばれ、同じように仰向けに寝かされる。クリトリスから膣、肛門までを消毒され、体をしっかりと固定される。施術者がピンセットでクリトリス包皮をつま

みあげた時、相当な痛みが走る。そこに横からメスを入れられ、クリトリスを覆っていた包皮が除去されるのは更に痛い。その上、血まみれで露出したクリトリスにもメスで切込みが入る。クリトリス本体を除去されないだけまだましであるが、だからといって痛みが軽減されているわけでは決してない。かつてアフリカからわたってきた人によって伝えられたと思われる女子割礼がこの部族の中では生きている。

４人の包皮が全て切り落とされた。取り除かれた包皮は、子ども時代の産物として、本人たちが見ている前で焼却される。尿道口やクリトリスにまでメスを入れるのは、痛みに耐えさせる以外の何物でもない。つい先ほどまで家の中を走り回っていた少年少女は、言葉も失って痛みに耐えていた。傷口が癒える日はやがてくるが、子ども時代は二度と帰ってこない。これからは部族の大人として、これまでとは違う生活を送らねばならない。これがこの部族で生きていくための掟である。

毎年１２月２４日、クリスマスイブの夜に秘密の儀式が行われる。ことことは経験者以外誰も知らない。これが部族にずっと前から伝わる聖夜の伝統儀式である。